

令和3年度 授業評価アンケート年間集計結果（専門学校浜松医療学院）

学科	鍼灸・柔道整復学科（学校全体）	学科
学年	全学年(1・2・3年)	年
部 / 組	全部 / 全組	部 / 組
授業科目	全科目	

回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

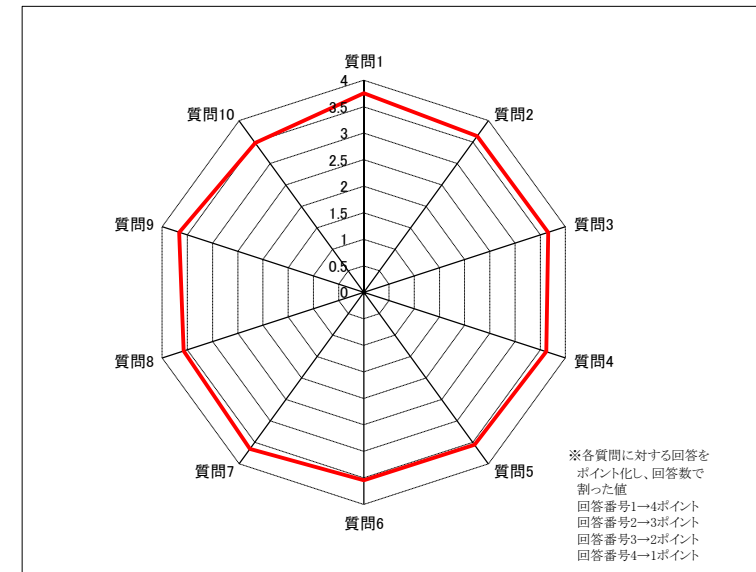
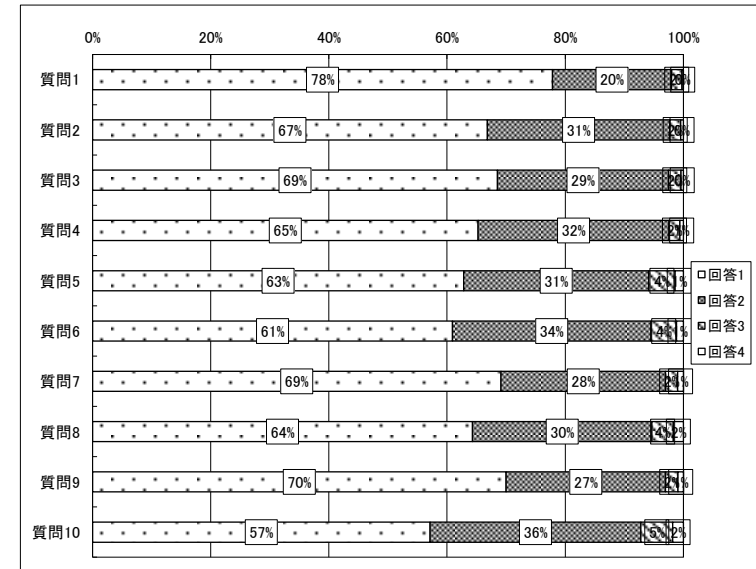
質問	回答					
	1	2	3	4	無回答	
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	3479	900	79	11	0
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	2986	1380	82	21	0
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。 (携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。)	3063	1293	95	18	0
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	2916	1444	83	26	0
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	2807	1400	199	63	0
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	2723	1500	194	52	0
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧に適切な対応をしていた。	3089	1245	92	43	0
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	2874	1357	162	76	0
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	3128	1205	95	41	0
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	2553	1594	241	81	0

昨年度の年間集計結果との比較において、質問7～10に改善がみられている。

令和3年度一年間の取り組みとして、教員一人ひとりが学生の理解度を確認しながら、分かりやすい授業提供への工夫と質問への丁寧な対応に心がけた結果、質問10の「授業でわかった、できたと思うことがある」の改善につながったことがうかがえる。

引き続き各質問項目の内容を達成できる授業の提供を目標に教育活動に取り組んでいきたい。

教務部長



令和3年度 授業評価アンケート年間集計結果（柔道整復学科）

学科	柔道整復学科（全体）	学科
学年	全学年（1・2・3年）	年
部 / 組	全部 / 全組	部 / 組
授業科目	全科目	

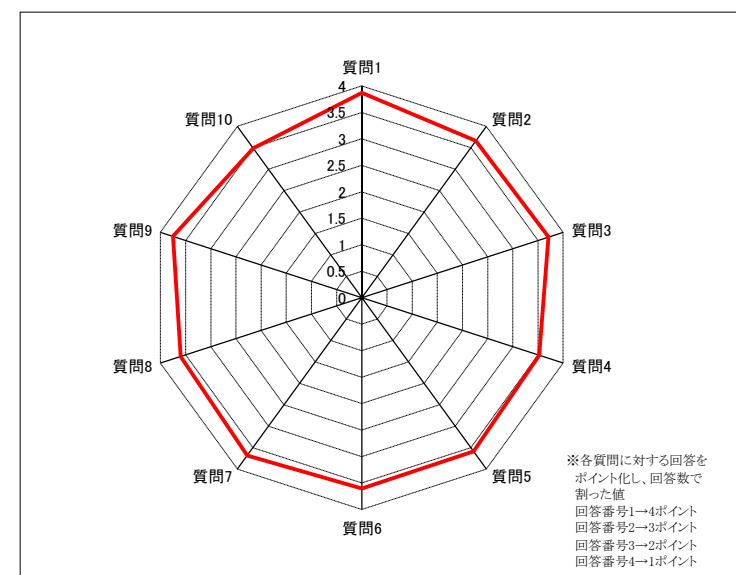
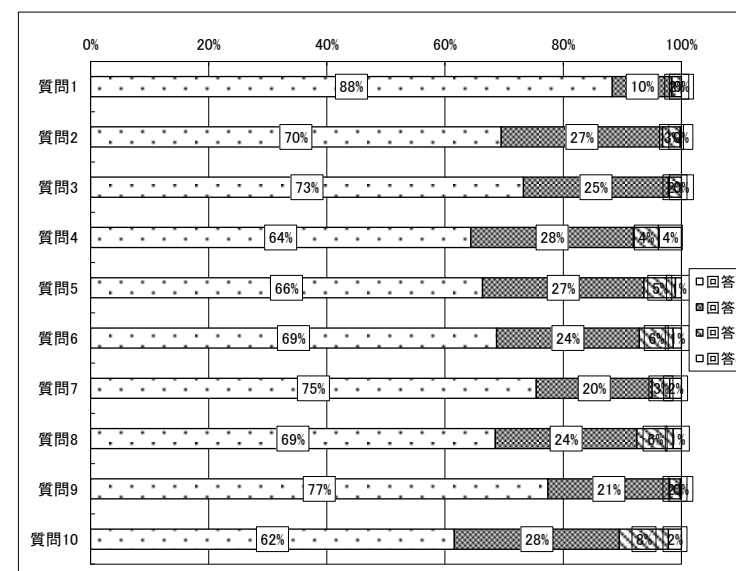
回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

質問	回答					
	1	2	3	4	無回答	
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	2130	530	42	10	0
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	1918	736	44	14	0
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。 (携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。)	1938	710	48	16	0
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	1870	770	53	19	0
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	1800	765	111	36	0
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	1737	816	127	32	0
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧に適切な対応をしていた。	1917	711	59	25	0
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	1822	755	95	40	0
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	1956	674	60	22	0
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	1652	877	135	48	0

質問10の「わかった・できた」の項目について、「あてはまらない（回答3・4）」との回答が他の質問に比べて高くなっている。この結果から「授業内容に関する質問項目については高評価を得ているが、実際には十分な理解にまで到達できていない学生が存在する」ことが浮かび上がってくる。学生が「良い授業だ」と感じていても、実際には十分な理解に至っていないことを見逃さないように注意をする必要がある。しかし、経年的には、項目10も若干の改善傾向にあり学生へのわかりやすい授業が展開されつつある段階である。

また、質問1の「授業出席」の項目は、他の項目と比べて良い回答になっており、授業への参加意識の高さを構築できていると考察される。しかし、例年2年次になると出席率が低下する傾向があり、中間学年における中弛みが考えられる。1年次の学校に対する緊張感・3年次の国家試験に対する意識のようなモチベーションが2年次には存在していないことが原因と考える。中間学年へのモチベーション対策をすることで更なる改善を促すことが出来ると思われる。

柔道整復学科長



※各質問に対する回答をポイント化し、回答数で割った値
 回答番号1→4ポイント
 回答番号2→3ポイント
 回答番号3→2ポイント
 回答番号4→1ポイント

令和3年度 授業評価アンケート年間集計結果（鍼灸学科）

学科	鍼灸学科（全体）	学科
学年	全学年（1・2・3年）	年
部 / 組	全部 / 全組	部 / 組
授業科目	全科目	

回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

質問		回答				
		1	2	3	4	無回答
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	1349	370	37	1	0
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	1068	644	38	7	0
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。 (携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。)	1125	583	47	2	0
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	1046	674	30	7	0
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	1007	635	88	27	0
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	986	684	67	20	0
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧に適切な対応をしていた。	1172	534	33	18	0
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	1052	602	67	36	0
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	1172	531	35	19	0
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	901	717	106	33	0

昨年と比較して、僅かではあるものの、全体的に高評価となった。人事異動や担当の変更等を最小限に抑えたことによる安定感を反映したものと受け取れよう。

科目ごとに見ると、比較的業務の担当に変更がなく、授業に専念しやすい状況では順当に授業評価が向上しているように思われる。

反面、新任・担当変更・授業外の業務負担などにより、評価向上の停滞がみられる傾向にある。

以上のことから、新任でも当校の学生の気質が見えるような情報共有の仕組みづくり、個人の特性を鑑みた適材適所配置と能力開発、安心して働ける職場環境づくりが肝要であり、学生の満足度と学習成果向上の鍵であると考えます。

鍼灸学科長

